

鉾田市まちづくり 推進会議広報



巻頭写真

北浦北部に外国人研究者ら 150 名がやって来た！

平成 30 年 10 月 17 日(水)、第 17 回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦 2018)の開催期間中に行われた現地視察(エクスカーション)において、世界各国からの参加者約 150 名が北浦北部にやって来ました。大事件です。ピンクの大型バス 4 台が黒船に見えました。

写真は無農薬・無化学肥料の田んぼでの説明風景です。滞在時間はわずか 10～15 分しかありません。担当者が急いで説明、通訳さんがマシガンのように英訳していきます。参加者からは次々と質問が飛び出し、関心の高さがうかがえま

した。なかには、通訳さんが「ああ、そうなんですか。」と感心してしまう場面も。

ボランティアで参加した鉾田市まちづくり推進会議のメンバーもカタコトの英語で奮闘します。「通じたよ。」と後で嬉しそうに話してくれたメンバーもありました。

それにしても滞在時間が短すぎます。北浦の景色や野鳥、当地の活動をまとめたポスターや写真・映像の展示、無農薬・無化学肥料の田んぼを説明付きで見学したら、少なくとも 30～40 分は必要だったのではないかと思います。事前に何度か時間延長を打診しましたが叶いませんでした。十分な説明ができれば、北浦北部の評価はもっと高まったのではないかと思います。

世界湖沼会議を振り返って

自然環境部会長 大木繁夫

世界湖沼会議(World Lake Conference)は、湖沼環境問題に関する研究発表や課題についての議論を行う国際会議であり、ほぼ1年おきに各国持ち回りで開催されています。環境問題という性格上、研究者だけでなく、行政や市民も参加するユニークな国際会議です。日本では、第1回(琵琶湖1984年)、第6回(霞ヶ浦1995年)、第9回(琵琶湖2001年)の計3回の開催実績があり、第17回にあたる2018年の本会は、茨城県霞ヶ浦での久しぶりの開催となり、「人と湖沼の共生ー持続可能な生態系サービスを目指してー」がテーマとなりました。

県内に5つのサテライト会場(土浦市、水戸市、かすみがうら市、茨城町、鉾田市)が設けられ、機運を高めるための様々なイベントが開催されました。鉾田市サテライト会場では、10/8に「鉾田市環境フェア」を開催したほか、7月から10月にかけて自然観察会等を計7回企画、我々自然環境部会も7/15の「ヨシゴイを見る会」、8/18の「ツバメのねぐら入りを見る会」、9/9の「カンムリカイツブリを見る会」を共催しました。北浦北部でサブコロニーを形成する準絶滅危惧のヨシゴイ、夕闇せまる巴川の湿地にて何万羽もが乱舞する幻想的な光景を見せてくれたツバメのねぐら入り、そして2009年以来、北浦北部において10年連続で雛の誕生が確認されたカンムリカイツブリを参加者の皆さんに紹介することができ嬉しく思いました。

世界湖沼会議の本会議(10/15~19)においても、自然環境部会の活躍は続きます。巻頭写真で紹介したエクスカッション対応(10/17)や、つくば国際会議場の大ホールで行われた霞ヶ浦セッション(10/18)での事例報告です。事例報告では単なる行事報告ではなく、鉾田市の行政や市民が、上述した本会議テーマの実現に向けて、どのような取り組みを行っているかに焦点を当てました。鉾田市の環境政策、水質改善への取り組み、自然環境の保護、教育・広報活動、生態系を活用した経済活動の創出に向けた挑戦について紹介しました。また、北浦北部のカンムリカイツブリについて、英文字幕スーパー付きのショートムービーを野村正満さんに製作いただきました。コンセプトのしっかりとした



北浦北部にてカンムリカイツブリが10年連続で誕生(2018年7月15日 鉾田市世界湖沼会議サテライト会場行事として開催した自然観察会にて撮影)



北浦北部におけるカンムリカイツブリの誕生記録(川又利彦氏調査)



世界湖沼会議霞ヶ浦セッションにおいて鉾田市サテライト会場を代表して事例報告(2018年10月18日 於つくば国際会議場)

映像には人に訴える力がありました。

この世界湖沼会議を契機に自然と共に歩むまち「鉾田」に向けて、官民協働で貴重な自然環境を守り、その利活用に取り組めたら良いのですが…。

新春教育フォーラムの背景

—早大前総長を招いて—

ほこた塾塾長 野村正満

□ 急変が予測される職業の質

英国の研究者の予測によると【今後 10～20 年程度で、米国の 47%の仕事が自動化される可能性が高い】とされています。

米国の研究者は【2011 年に米国の小学校に入学した子供たちの 65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く】と予測しています。

近い将来、人工知能の飛躍的な発展により頭脳労働までもがコンピューターに代替される可能性があるのですが、同じ労働人口に値する新たな職業が生まれるという保証はありません。

私にはショッキングだったこのデータは、今年 1 月に大洋公民館で開催された銚田市まちづくり推進会議が主催する「新春教育フォーラム」で政府の教育再生実行会議座長の鎌田薫氏が指摘したものです。

□ 新春教育フォーラムのテーマ設定

この 5 月に新天皇が即位し、元号が「令和」に改められました。その元号を決めた「元号に関する懇談会」の有識者 9 名のうちの 1 人が新春教育フォーラムで基調講演をお願いした鎌田薫氏でした。

新春教育フォーラムは毎年 1 月に開催される教育というカテゴリーの中から、時代に即したテーマを設定して、考えを深めようという企画です。また、「ほこた塾」の講座の一環としての性格もあるため、9 月からの塾生募集の前に、内容の検討が始まります。去年、講師の選任にあたり、すぐに鎌田氏が思い浮かびました。鎌田氏は安倍政権が最重要課題のひとつと位置づける教育問題に取り組む教育再生会議の座長であったからです。教育再生実行会議は、総理大臣、内閣官房長官、文部科学大臣もメンバーの一員として出席する有識者が集まる政策会議です。通常の審議会とは性格が違います。教育に関しては文科大臣の諮問機関として中央教育審議会(中教審)があって教育行政に意見を述べることになっていますが、教育再生実行会

議は「実行会議」という名称が示すように、次々と具体的な提言を行い、政府はそれをすぐに予算化・法制化して実行に移すというアクティブな仕組みです。2 年前の新春教育フォーラムでテーマとした道德の教科化も、この会議の第 1 次提言に基づくものです。

□ 鎌田氏への講演依頼

さて、その座長という要職にある人物が鎌田という片田舎に足を運んでくれるだろうか、と誰もが首を傾げたのですが、とにかく本人に聞いてみることにしました。実は、私と鎌田氏は学生時代からの友人で、気軽に話ができる間柄でした。とはいえ、本業である早稲田大学の総長は休日も全国に数百もある校友組織稲門会に出席するなど極めて多忙です。ところが、11 月に総長職の任期を終えることになっていて、翌年 1 月ならば時間がとれるかも知れないと考えました。本人に水を向けると、あっさりと受けてくれました。



□ 学校で終わらない学び続ける環境

鎌田氏を招いての新春教育フォーラムで掲げたテーマは「教育再生と地方創生」です。2013 年 1 月に設置された教育再生実行会議は頻繁に開催され、2015 年 3 月には第 6 次提言《「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について》を出しています。冒頭に記した職業の変化についてのデータもこの提言書で示されたものです。



第7回新春教育フォーラムでのシンポジウム「教育・文化による銚田創生のヒント」

(2019年1月12日(土)
於銚田市大洋公民館)

フォーラムでの鎌田氏の基調講演では、科学技術の進展で速度を上げる社会構造の変革は、社会が要求する人材を育成する学校教育にとどまらず、これから社会に出たあとも誰もが学び続けることができる、そんな教育を実現していけるように、教育の内容も根幹的な質の変化が求められると示唆がありました。

何歳になっても夢と志の挑戦をし、ひとり一人が充実感を持って幸福に生きていくことができる社会を実現することが重要だというわけです。すでに、仕事と生活の調和(ライフ/ワーク/バランス)の進展が進んで、労働時間の短縮が見込まれる社会状況の中で、職業のあり方を様変わりさせるには、教育のあり方も大きく変容せざるをえないでしょう。

□ 地方創生のキーワードは教育

また、日本は地方の人口減少と地域経済縮小という課題を抱えていて、それを解決するためには「地方創生」を成し遂げる必要がありますが、その成否は人材にかかっています。まさに「教育」の力が大きく、教育が地域を動かすエンジンの役割を担っていると指摘しています。

地域の将来を担う子供を育てるため、郷土への理解と誇りなどを育む教育が必要で、地方の豊かな自然と結びついた魅力ある学校教育の実現は、良質な教育環境を求める都市人口流入も喚起できることとなります。また、学校教育と社会教育が一体となった、まちづ

くりの視点も重要になります。地域を挙げての教育による地方創生の取り組みが求められるというわけです。

これらの教育再生実行会議の提言に基づく予算はすでにメニュー化が始まっています。こうした制度を活用して、まちづくりを検討することは、十分に意味がありそうです。鎌田薫氏を招いての新春教育フォーラムは、これからの銚田におけるまちづくりと教育の方向性にとって、実に示唆の多いものとなりました。

□ 認知されていないイベントの質

ところで、新春教育フォーラムは銚田市教育委員会も共催する催しです。シンポジウムには教育長もシンポジストに加わっていただく企画でしたが、直前になって欠席ということになったのは残念です。滅多にこの銚田では聴くことのできない機会でもあったのですが、教育行政の責任者にその価値を理解してもらえなかったのは、私たちの努力不足であったのかも知れず、反省しなければなりません。

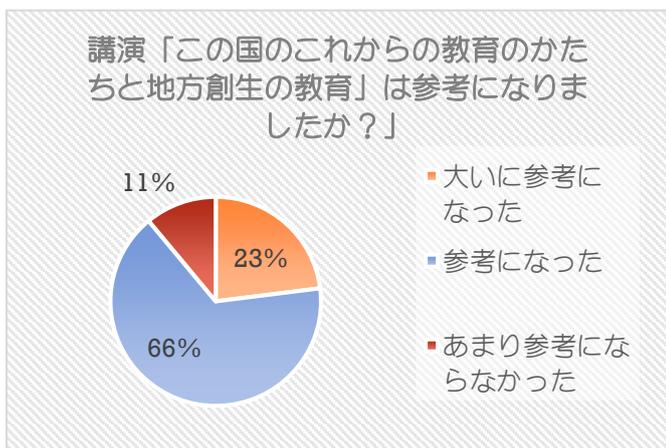
また、この新春フォーラムは茨城新聞に大きく記事が掲載されましたが、銚田市の広報誌『広報ほこた』には開催予告こそ小さく掲載されましたが、報告記事としては一切触れられることはありませんでした。「編集出版責任者の地元で開催されたイベントのニュースとしての掲載価値基準を疑う。」という声も何人かから聞きましたが、これも私たちの今後の活動に活かして行くことが必要かも知れません。

—参加者の声—

本教育フォーラムには 130 名の参加者があり、64 名の方からアンケートの回答をいただきました。

【鎌田先生のご講演に対して】

約 9 割の方々から参考になったと評価いただきました。寄せられた主な意見を以下に示します。



<主なご意見>

今の教育の課題が見えて良かった。さらに鎌田の魅力を子供たちに発信していかなければならないと思いました。

銚田市にはどんな教育が必要なのか、具体的な手立てを知りたいと感じました。

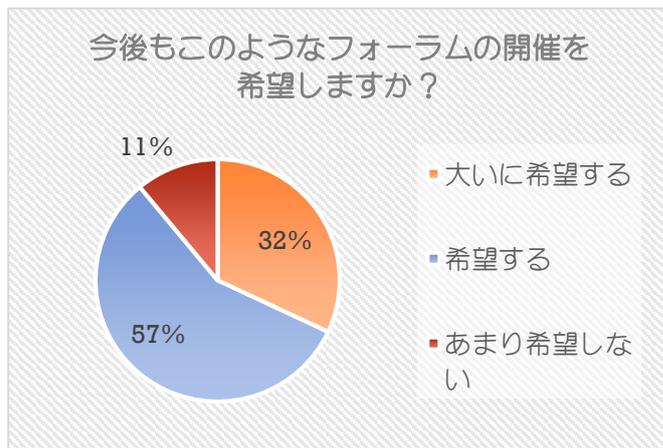
講演後に行われたシンポジウムでは、文化施設や昨年度のテーマであった放課後児童クラブの必要性に話題が及びましたが、それらに対する反響も寄せられました。

文化的施設、市民が他市民が集える施設の早期建設を願う。魅力あるまちづくりのために、人口を増やすために。

南小、北小に児童クラブができれば、地域の方が参加し、協力し、結果郷土愛、文化継承（今日のテーマ）につながっていくと思っています。やはり、文化的拠点が欲しいですね。

【今後の教育フォーラムについて】

約 9 割の方々から開催を希望するとの回答をいただきました。学校教育関係者の参加が多く、前向きに受け止められたものと考えております。寄せられた主な意見を以下に示します。



<主なご意見>

教育のみでなく、社会、企業等、働く場所のシステムや考え方の改革が必要です。

銚田市の経済活性化に関する内容でお願いしたい。

まちづくりは人づくりと考える時、学校関係者の（声かけ）参加が中心であることは、せっかくの機会が生かせないと思います。

教育関係者の批判ではなく、共に創っていく協働の形をつくって欲しい。子どもたちの教育のために。

教育フォーラムのテーマ設定や運営方法に関する貴重なご意見をいただきました。これらを参考に、更なる活動に励んでいきたいと思っています。

各部会より

広報部会

部会長 田口裕之

広報部会では銚田市まちづくり推進会議の活動を多くの方々に知っていただくため、広報誌 IPPO の作成、ホームページやフェイスブックにおける活動のお知らせ・報告を行っています。コメントをお寄せ下さる方はまだ少ないのですが、年々閲覧者が増加しており、確かな手応えを感じています。

ホームページに「いいね！」のカウンターを設置しているのですが、数えるほどしかなかった「いいね！」の数が、フェイスブックを開始して一年後の平成 29 年度末には 163 に増加し、さらに一年が経過した平成 30 年度末(平成 31 年 3 月 31 日)には 395 になりました！！そして、まだまだ増加中です。

この「いいね！」は一人一回しか押すことができません。これだけの方々に応援いただいて本当にありがたいです。記載内容については、改善の余地が多々ありますので、もっと知的に面白く、親しみやすく、銚田の魅力やまちづくりに向けた活動を発信できるよう、努力していきたいと思えます。

広報部会員を募集しております。IPPO やホームページ、フェイスブックでの記事掲載をお手伝いいただける方、是非お声がけ下さい。よろしく願いいたします。

人材育成部会

部会長 飯塚克則

人材育成部会が主催している「ほこた塾」は第 19 期となった平成 30 年度も、バラエティに富んだ講座を実施し、多くの塾生に好評をいただきました。

全7回の基本講座は、野村塾長の70歳のアメリカ横断1万キロの冒険談から始まり、タイガーマスク運動創始者の河村氏の行政を動かすまでの感動的な講演、弘道館の歴史と和算体験、ワクワクドキドキの「マヤ暦」、前副知事が率直に語ってくださった銚田市のすがた、廃校施設の利活用…と、どの講座を取っても夜の2時間では収まらないようなボリュームのある内容でした。

特別講座では、これまでの銚田の史跡を探訪する講座の他、世界湖沼会議で果たした銚田の役割を考

え、自然環境にも目を向ける講座も設けました。

特筆すべきは特集記事にもあるように、鎌田薫氏を招いて行われた教育フォーラムではないでしょうか。

「地方創生のキーワードは教育」とありますが、学校教育のみならず社会教育がますます重要になると言われる今こそ、私たち人材育成部会は、次年度もより多くの方たちに有意義な学びの場を提供できるように企画運営していきたいと決意を新たにしています。

中村一男さん 3期連続皆勤賞

前人未踏のほこた塾 3 期連続皆勤賞を達成された中村さんから一言をいただきました。



『第 17 期ほこた塾に初めて入塾しました。以前よりほこた塾の事は知っていたのですが、夜間の車の運転が不安でしたので申し込みができませんでした。いつもラジオを聞

いている茨城放送で番組を担当しているシンガーソングライターの磯山純さんが講師として招かれる講座のあったのが、入塾の切っ掛けです。毎回魅力ある基本講座・特別講座が楽しみで出席しています。これからも講座を宜しく願いいたします。』(中村 一男、銚田市在住、75 歳、自然観察・史跡探訪が好きです。2019 年 5 月 4 日(土))

仲間づくり部会

部会長 深作和則

平成 30 年度私たち仲間作り部会の活動としまして、婚活事業を 4 回、ほこたカルタを歩こう会を1回実施いたしました。6 月に銚田産のメロン食べ放題婚活、9 月に水戸市内の飲食店を使い大人の婚活、11 月に銚田市内のホテルでのケーキ作り婚活、3 月に銚田市内のホテルでのスイーツビュッフェ婚活を開催し、延べ 100 名(男性 57 名 女性 43 名)の参加者があり計 14 組のカップルが誕生しました。その中から一組でも多く結婚に結びついていただければと部会一同願っております。また、カップルになれずとも前向きに参加していただければ結婚を望んでいる異性と知り合い、思いを共有する同姓と知り合うことで出会いが広がり結婚に結びつく

お相手に巡り合うチャンスも増えます、実際後日連絡を取り合い結婚に至る方も数組おりますので独身の方は是非気軽にご参加いただければと思います。

12月に開催しましたほこたカルタを歩こう会では無量寿寺からスタートし、相馬藩と仙台藩が江戸までの物資輸送に往来した道を歩いて巡りました。道中いたるところに当時を偲ばせる風景があり、当時銚田が江戸へ向かう陸路と水運の要衝だったことが想像できた歩こう会でした。

最後に私たち仲間づくり部会では婚活ボランティアスタッフを募集しています。老若男女問わず一緒に婚活事業を企画運営し銚田市の婚活を盛り上げていきましょう。



スイーツビュッフェ婚活(3月)



メロン婚活(6月)



ケーキ作り婚活(11月)

自然環境部会 部会長 大木繁夫

平成30年度は、第17回世界湖沼会議の茨城県霞ヶ浦での開催、北浦北部におけるカムリカイツブリの10年連続誕生という二つの大きな出来事がありました。当部会は世界湖沼会議に対し極めて重要な役割を果たすとともに(1,2 ページ参照)、自然観察会を銚田市世界湖沼会議サテライト会場行事も含め11回(内、6回は清掃活動を実施)、移動研修を2回開催しました。これらの活動が銚田のまちづくりと観察会参加者の啓発の一助となったことを願っております。



第7回自然観察会 — 野友小の子どもたちと雑木林の植物を観察(平成30年10月21日)

第2回 平成30年度 FB掲載記事ランキング

おかげさまでフェイスブック(FB)の銚田市まちづくり推進会議のページも2周年となりました。平成30年度に掲載した記事61件の中で反響が大きかったものは何か？ **エンゲージメント数**(「いいね！」クリック数、コメント数、シェア数より評価)でのランキングを発表します。記事が届いた人数を表す**リーチ数**も参考に示します。(集計日:平成31年3月31日)

第1位

第7回新春教育フォーラム(2019年1月12日(土)於銚田市大洋公民館)を開催しました。

リーチ **401** エンゲージメント **99**

新春教育フォーラムが堂々の1位に輝きました。2年連続で1位。この反響の多さ、認めざるを得ません。リーチ数では第3位でした。



第2位

第5回自然観察会「ツバメのねぐら入りを見る会」を開催しました。リーチ **216** エンゲージメント **92**



ついに自然観察会の記事が第2位に。夕焼けの水面にツバメが飛び交う幻想的な映像が注目を集めました。(1位かと思いましたが、年明けにあっさりとはかされました。)

第3位

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)エクスカージョン リーチ **454** エンゲージメント **72**

第3位には世界湖沼会議のエクスカージョンがランクイン。一生に一度あるかないかの経験でした。リーチ数は年間2位。



第4位～第10位

第4位から第10位までを下表に示します。第10位の「婚活 de まちづくり」のリーチ数は731で、ぶっちぎりの年間1位でした。

表 第4位から第10位までの結果

(LH:リーチ数、EN:エンゲージメント数)

No.	タイトル	LH	EN
4	銚田市環境フェア(銚田市世界湖沼会議サテライト会場記念式典)に参加してきました。	218	55
5	第19期ほこた塾 基本講座②「伊達直人」は私です タイガーマスク運動の始まりとこれから	208	52
6	明日(12/16)は自然観察会です。	193	49
7	第6回自然観察会のお知らせ「カムリカイツブリを見る会」	226	47
8	自然環境部会 第2回移動研修(2019年1月20日)(その2)	163	45
9	第19期ほこた塾 塾生募集中です。	383	40
10	第19回婚活 de まちづくりの日程変更です。	731	39

編集後記

IPPO 第16号を読んでいただきありがとうございました。元号が平成から令和に、「内平らかにして外成る」時代から「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」時代へと変わりました。今後「もの」から「こと」へ、物質主義から精神主義へのシフトが加速していく中で、銚田市まちづくり推進会議の役割も重要になりそうです。みなさん、一緒に頑張りましょう！！

S.M